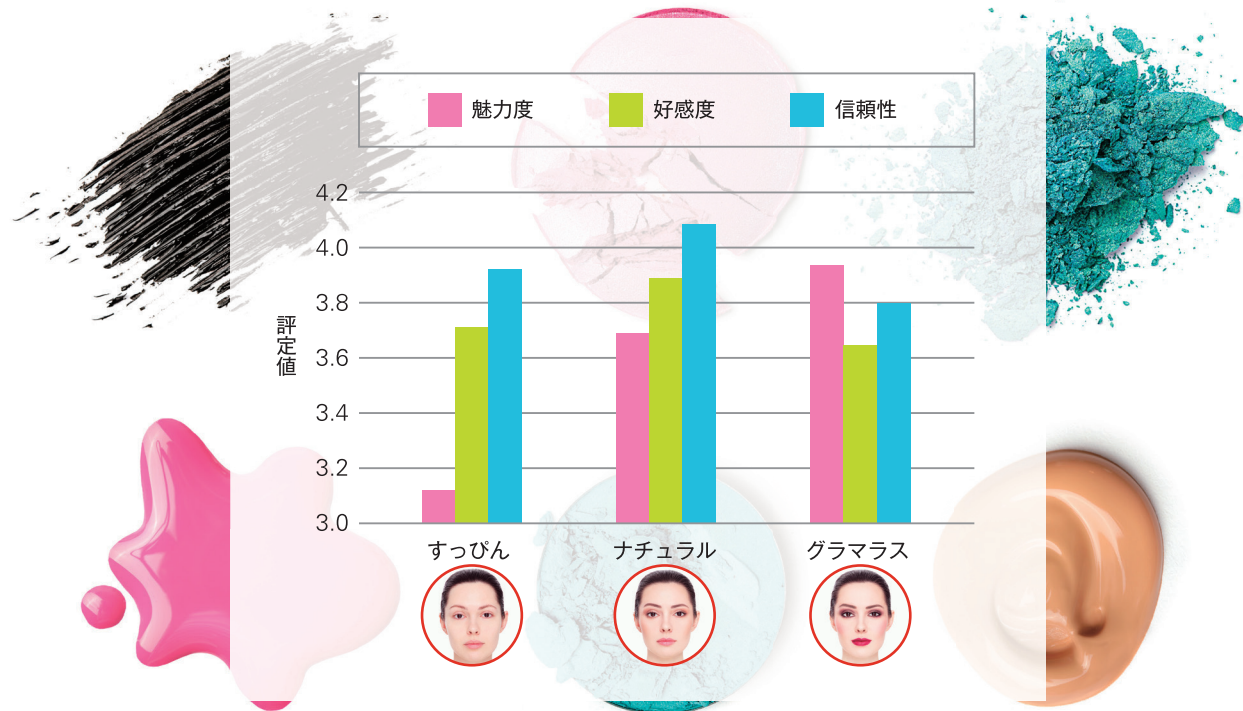


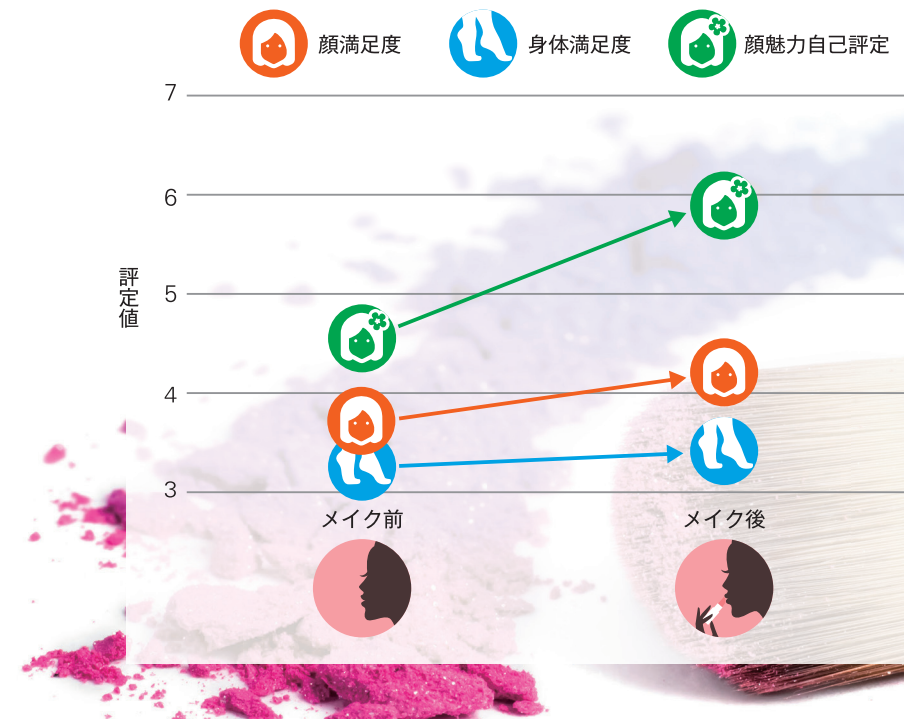
メイクの濃さと印象の関係

魅力度は濃いメイクであるグラマラスメイクのときに最も高まるが、好感度と信頼性はナチュラルメイクのときに最も高い。魅力度も好感度も信頼性もすべて同時に高めるメイクというのは、なかなか難しいのかもしれない。



メイクと自分への満足度の関係

メイク後はメイク前に比べて、自分自身の顔への満足度が高まり、自分の顔を魅力的だと思う程度も高まった。メイクは他者のためにするものであると同時に、自分のためにするものでもあるのだ。



現代社会では、特に女性にとってメイクアップは欠くことができないものとなっている。なぜ女性はメイクをするのだろうか。

最も大きな理由は、外見的な魅力を向上させるためである。メイクとして行われるものとして、まず、ファンデーションなどによって肌のきめを整えたり、シミやにきび、肌のくすみなどを隠すということがある。私たちは、他人の年齢を判断するとき、このような肌のテクスチャーの情報を利用している。そのため、肌のきめを整えることによって、より若く見えるようになる。特に女性においては、年齢が若く見えることが魅力を向上させることがわかっている。顔色を血色よく見せたり、唇を赤く見せたりすることも行われる。このような情報も対人魅力の判断においては極めて重要な要素である。顔色は健康状態を示すシグナルになっ

ているからである(→017)。また、女性の唇の赤さは男性の性的な感情を刺激し、やはり外見的な魅力を向上させることがわかっている。赤という色は、唇だけでなく服装や持ち物に使われていても同様に魅力を引き上げる効果を持っていることが知られており、これをロマンティックレッド効果と言う。

男性が女性に比べてメイクをしない理由は、対人魅力に占める外見の効果が女性に比べて大きくないからだと考えられる。男性の魅力はむしろ、経済力や社会的地位、屈強な筋肉などメイクの対象でないものに規定されることが多いのである(→016)。

◆外見的魅力を上げるメイク

では、外見的な魅力を向上させるためには、どのようなメ

イクが効果的なのだろうか。この問題を検討したのが、ハーバード大学のナンシー・エトコフらのグループである。彼女らは、20歳から50歳の女性モデルの顔をデジタル加工して、すっぴん顔、ナチュラルメイク顔、グラマラスメイク顔を作った。そして、これらの顔写真をいろいろな人に見せて、その魅力度と好感度、信頼性を評価させたところ、メイクが濃くなるにしたがって魅力度は増加したが、好感度や信頼性はナチュラルメイクのときに最も高くなった。

メイクは確かに外見的な魅力を上げる効果を持つが、その人の本来の情報が覆い隠されてしまうため、全体的な印象が必ずしも良くなるとは限らないのである。

◆自分への満足度を高めるメイク

メイクには実はもう1つ重要な役割がある。それは、自分

自身に対してより肯定的な感情を持たせてくれるという点だ。オールド・ドミニオン大学のトーマス・キャッシュは、すっぴんの状態とメイクをした状態の女性に、自分の顔や身体に対する満足度を9段階で評定させた。その結果、メイクをすることによって、自分の顔についての評価や満足度が大きく上昇することがわかった。

これは、そのまま人前に出たときの自分の行動にも大きく影響する。女性なら誰でも、メイクがうまくいかなかった日には暗く、消極的になってしまい、逆にメイクがうまくいった日には明るく、積極的になった経験に思い当たるだろう。メイクによって生じたこのような自己の変化がさらに自分の魅力を向上させている可能性もある。メイクは私たちにとって極めて大きな影響を与えているものなのである。

(越智啓太)